

そのころ、日本の国は、食料不足がだんだん激しくなり、国をあげて、増産しなければなりません。滑津原でも、田をつくるためには、どうしても水が必要になりました。大正二年、入江新六郎は、滑津村、吉子川村、関平村の三か村の協力を得て、屠洞原と二ツ山に貯水池をつくり、滑津原背戸原一带に、水がいきわたるような計画をたてました。この計画を実施するため、入江新六郎を組合長とし、三村から多くの人々が組合員になり、大正三年（一九一三年）七月十三日、三ヶ村連合耕地整理組合が正式に誕生しました。

組合では、三年数か月かけて、用水路を

(村史資料より)

※ 三ヶ村連合耕地整理組合(大正3年7月13日)	
○組合長	入江新六郎
○副組合長	水野谷徳次郎(滑津村長)
〃	高塚四四郎(吉子川村長)
〃	田崎智良(関平村長)
○評議員	9名(各村の有志)
○組合員	386名
○面積	646町4反7畝
○費用予算額	8万7千2百3円5拾4銭7厘